

一兎をも追えないくせに趣味多彩

竹本 タエ子

クラス会ハグはすれども名前出ず

寺畑 末雄

早起きを忘れた脳が大欠伸

田中 たづ子

読んだのにすぐに忘れるレシピ本

藤井 節子

内緒には内緒にするだけ理由がある

重宗 隆治

いっとをもおえないくせにしゅみたさい

たけもと たえこ

くらすかいはぐはすれどもなまえでず

てらはた すえお

はやおきをわすれたのがおおあくび

たなか たづこ

よんだのにすぐにわすれるれしびぼん

ふじい せつこ

ないしょにはないしょにするだけわけがある

しげおね たかじ

閉校の厚き記念誌麦の秋

林 保江

飛魚の煌めき飛びぬ隠岐航路

馬場 精作

惜春や茶店に淡きらランプの灯

藤岡 久美子

少年の肘の瘡蓋椎若葉

金内 憲一

手の平に父の温もり子供の日

田中 孝利

へいこうのあつききねんしむぎのあき

はやし やすえ

とびうおのきらめきとびぬおきこうろ

ばば せいさく

せきしゅんやさてんにあわきらんぷのひ

ふじおか くみこ

しょうねんのひじのかさぶたしいわかば

かねうち けんいち

てのひらにちちのぬくもりこどものひ

たなか たかとし

デイサービズ迎へ来る間の一刻を
時計見ながら草引き待ちぬ

川本 禮子

きのうより濃き陽の匂いひざかけに
小さな幸せ友にあげたい

中司 和子

わたくしの好物ばかり実らせる
夫の畑は愛かもしれず

松永 美千代

落のとう雪かぶりつつ芽吹きおり
陽射し届けよ畑のすみにも

河野 敬子

人通り途絶えし昼間の静けさに
移動販売車のメロディー流れる

江川 詳子

でいさーびすむかえくるまのひとときを
とけいみながらくさひきまちなぬ

かわもと れいこ

きのうよりこきひのにおいひざかけに
ちいさなしあわせともにあげたい

なかつか かずこ

わたくしはたけはあいかもしれず
つまのはたけはあいかもしれず

まつなが みちよ

ふきのとうゆきかぶりつつめぶきおり
ひざしとどけよはたけのすみにも

かわの としこ

ひとどおりとだえしひるまのしずけさに
いどうはんばいしゃのめろでいながれる

えがわ しょうこ

右田ヶ岳が私を見ている

岡村 裕司

元気になってね はねてくるメール

西岡 悦子

実えんどうの皮をむけば浮かぶ母の指

賤間 由美子

ひとり暮し声かけあってほっとする

田中 律子

散る花に古い友人の消息を問う

吉野 俊夫

みぎたがだけがわたしをみている

おかむら ゆうじ

げんきになってね はねてくるめる

にしおか えつこ

みえんどうのかわをむけばうかぶははのゆび

ざいま ゆみこ

ひとりぐらしこえかけあってほっとする

たなか りつこ

ちるはなにふるいゆうじんのしょうそくをとう

よしの としお